

まあ、よんでみて!

18号 2009年 冬号

特集 ～障害者関係団体の紹介～

今回は遷延性意識障害や高次脳機能障害がある当事者、家族、関係者による組織である堺脳損傷協会を紹介させていただきます。

今回は堺脳損傷協会で開催している家族リハビリの会にお邪魔して納谷敦夫先生のお話をお聞かせいただき、活動を見学させていただきました

堺 脳 損 傷 協 会

団体の紹介



「堺脳損傷協会」は、後天性脳損傷により遷延性意識障害や高次脳機能障害などの障害がある人の医療やリハビリテーションおよび福祉の増進のための啓発活動、相互支援、社会活動などを行う組織です。

堺市が政令指定都市になったことに伴い、堺市を中心に活動する予定ですが、堺市に限定した組織ではありません。

脳損傷当事者、家族、友人、医療関係者、福祉関係者などで構成されます。

左写真:今回インタビューにお答えいただいた納谷先生

発刊:(社)大阪府理学療法士会 障害者保健福祉部

〒540-8790 大阪市中央区常磐町1-4-12-301 TEL06-6942-7233 e-mail:disabled@physiotherapist-osk.or.jp

印刷所:身体障害者授産施設 大阪ワークセンター 〒594-0031 和泉市伏屋町5-10-11 TEL 0725-57-0883

発足の経緯

元々の活動していた団体の本部が奈良に移ったことにより、大阪で高次脳機能障害の当事者団体がなくなり、こういった活動は地域で行うことが望ましいという考えから納谷先生が中心になり発足させました。

活動内容

(例会)

奇数月第3日曜11時から

○家族・当事者交流会

自己紹介、体験発表を通じ、情報交換、親睦を図ります。

○ランチタイムミーティング

ランチを食べながら、わいわい楽しく交流します。

お弁当などを注文した際には実費をいただきます。

○例会議事

○脳損傷セミナー

脳損傷の治療、リハビリ、福祉制度などについて勉強し理解を深めます。

テーマは会員の希望により決めます。

参加費はセミナー講師謝礼分担金、お茶代として400円いただきます。

(家族リハビリの会)

毎月第1土曜 14時～16時

ええかおクラブ:高次脳機能障害の人のグループワークやゲームをします。

トランポリンの会:トランポリン、歩く練習、体操、ゲームなどをします。

(相談サービス)

メール、電話、面談などによる相談をお受けします。面談による相談は電話で予約ください。

入会方法

年会費1000円(1家族)です。

年6回会報をお送りします。

無料でも入会いただけますが、会報はお送りしません。

入会は郵送、FAX、メールにて申し込めます。詳しくはホームページをご参照ください。

PTに望むこと！！！！

「この患者さんは自覚がないから難しい」とよく聞くがそれが障害であることを理解して、
動機・記憶について工夫を加えて関わってあげてほしい
気の長いリハビリを期待したい。維持という考えだけでなく10年後の変化もイメージしてほしい。

次に見学をさせていただきました



訪問させていただいた日は家族リハビリの会の活動日でした。

家族リハビリの会は「ええかおクラブ」と「トランポリンの会」の二つの活動があります。

「ええかおクラブ」は高次脳機能障害がある人がミーティングを行っていました。今回は2名のOTがボランティア参加しており、メモリーノートの活用や自己の障害の振り返りに取り組んでおられました。また、ボランティアさん(この日は大阪府立大学や桃山学院大学から福祉を専攻されている学生さんが6名参加)もお手伝いされていました。

その様子を家族が見守りながら話し合いが進んでいきました。

ミーティングは各参加者が自己紹介や障害について、最近の出来事を話されていました。進行役のボランティアのOTが話が伝わり易くなる工夫や、メモリーノートを見返して忘れていたことを振り返られるようにアドバイスをされていたことが印象的でした。

「トランポリンの会」は対象者がトランポリンの上で介助者が後方から、対象者を臥位から抱え座位にし、もう一人の介助者が、股関節が内転しないよう下肢の間に身体を挟みリラクゼーションを図りながら、音楽に合わせてトランポリンに揺られていました。

この日の参加者は2名でしたが納谷先生夫妻、ボランティアさん、ご家族などが協力して活動されていました。

今回この活動取材させていただいて、当事者が集まって啓発活動や広報活動を通じて障害理解を社会に求めたり、制度の改善を求めたりといった運動のみならず、実際に家族リハビリの会を開催し、自己の生活機能を改善する取組みを盛んに行っている団体であると感じました。また、その活動には医師である納谷先生やボランティアのOTなどの専門的な立場による取組みであることも貴重な活動であると感じました。

我々PTにとって高次脳機能障害がある患者さんと接する機会は少なからずあります。しかし、高次脳機能障害がある患者さんにどのように接すればいいのか悩んだり、また、自立に向けてどのように取り組めばいいのか思い悩むことも多々あると思います。

そんなときにこの協会の活動を思い浮かべることでその解決の一助になると感じました。

書籍情報

今回に取材の際、納谷先生のご厚意で堺脳損傷協会が発行している書籍・冊子を頂きました。これらの書籍については協会ホームページから購入することが出来ます。



「脳損傷の知識」
脳損傷に直面した人々や家族・介護者・関係スタッフなどに幅広い知識を提供することを目的にクイーンズランド脳損傷協会(豪)が発行したものを翻訳した冊子。



「遷延性意識障害者の在宅介護を考えている人のために」
在宅生活に向けての気持ちの準備や福祉用具や制度について簡単な説明。



「クイーンズランド脳損傷協会はどのように発展したのか(行動)こそ成功の鍵」
2007年7月堺市で行われた研修会におけるJohn Dickinson氏(クイーンズランド脳損傷協会CEO)の講演をもとに構成されたもの。



「意識の回復を待つあいだに家族にできること」
意識が戻らない患者さんの家族向けに家族の体験からアドバイスをまとめたもの。



「オーストラリア脳損傷事情」
オーストラリアでのリハビリシステムの見学を通してオーストラリアの状況をまとめたものです。

【連絡先】

堺脳損傷協会

〒599-8242 堺市中区陶器北449 なやクリニック気付

URL:<http://www.nayaclinic.com/bias/>

編集後記

今回の「まあ読んでみて」では、堺脳損傷協会を取材させていただきました。脳損傷により障害を持った人や家族・関係者、医療・福祉関係者が協力して、より良く生活していくための活動をされていました。病院など一定期間での患者・家族との関わりだけでなく、理学療法士として、その後の長い人生をサポートできるこのような団体を紹介することも必要だと感じました。取材に協力していただいた皆様、有難う御座いました。

ホームページもぜひご覧下さい。

http://www.physiotherapist-osk.or.jp/page/top_f.html

